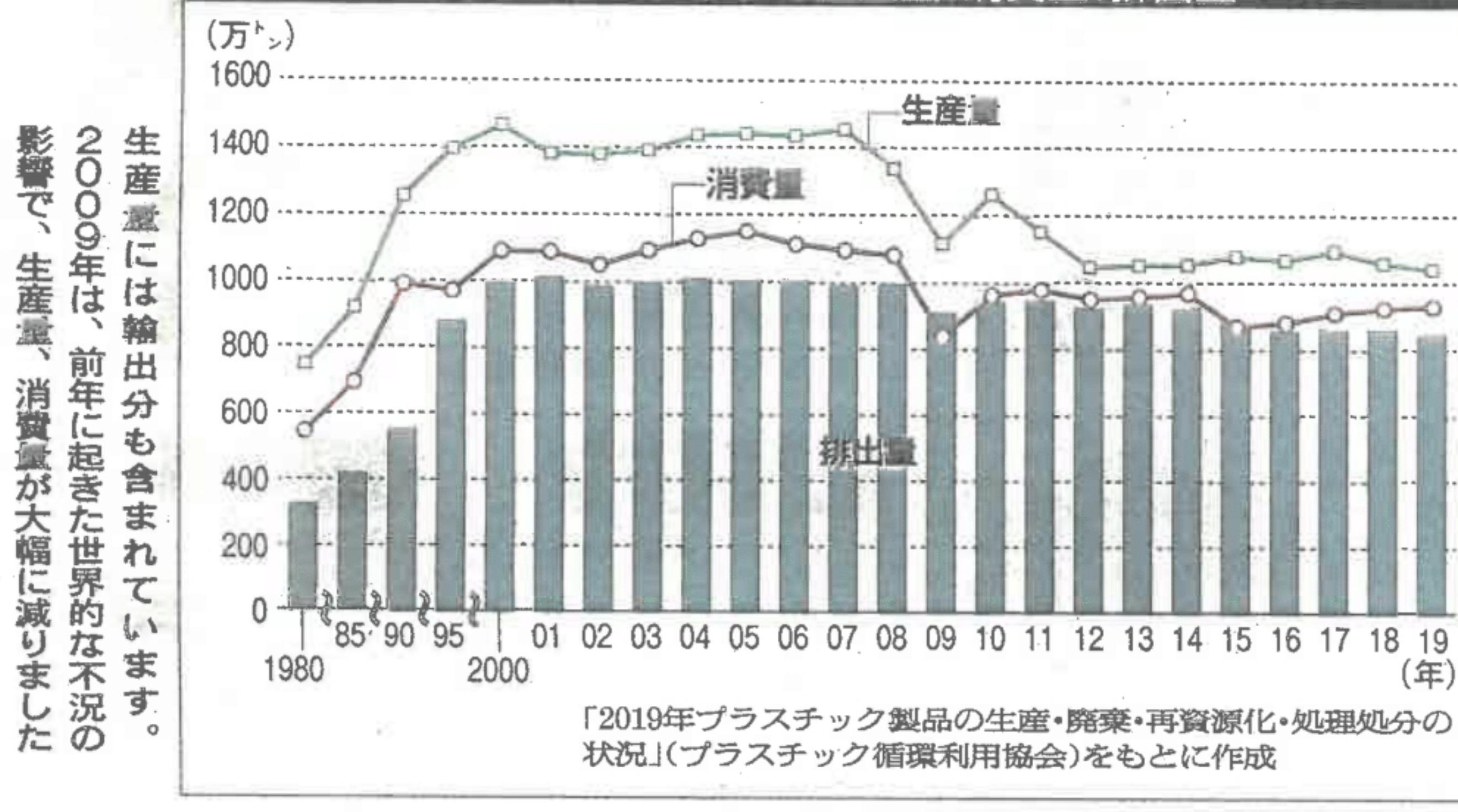


国内のプラスチックの生産量、消費量、排出量



生産量には輸出分も含まれています。
2009年は、前年に起きた世界的な不況の影響で、生産量、消費量が大幅に減りました。



包装材を約30%減らした包装
＝山崎製パン提供

便利さから広がったプラ包装

削減はあの手この手で

「ごみ問題について実証研究している京都経済短期大学准教授の小島理沙さん（環境経済学）に聞きました。



今、環境問題は無視できない

プラ包装は1970年代から増え始めました。これにはスーパー・マーケットの進出が大きく影響しています。スーパーでは、個別の包装に产地や製造日などを表示しなければなりません。売り場で目立たせるため、必要以上に包装する傾向もありました。

食品の品質を常温で長期間保てるプラ包装は大変便利です。しかも安く大量に生産できます。

10年あまり前、山崎製パンと協力して、兵庫県神戸市内の一店で包装を減らす実証実験をしました。ロールパンなどの袋の形を変えたのです。きちんとやぐのように上部にギャザーを寄せるのをやめて、普通の袋のように閉じました。包装材が約30%減ります。

社内から「口が閉じられないって不便を感じるので」「売り場で目立たなくなるのでは」という心配が出ましたが、実際には苦情や問い合わせはありませんでした。お客様さんは「そこまで求めてい

きます。ただ、適切に処理しないといでの問題を生み出します。今の企業は環境問題をないがしろにすることはきなくなっています。

すべてほかの素材に替わればいいかというと、そう簡単なことではありません。紙製

では中身の品質が保てない場合があります。自然に返る素材も、返るまで大変時間がかかります。一方、ペットボトルなどは回収したほうがいい。きれいな状態で大量に集まる素材は、再生品としてアピールできて高値で取引されるからです。

「ごみの削減は、一つの取り組みで完璧といふことはありません。でもひととを複合的に試しながら、少しでも有効な方法を見つけていくことが大切です。

消費者の私たちの声で動く

「お客さまの声」はありません。

消費者である私たちができることがあります。一つには過剰包装のものを買わないこと。そしてもう一つは「少し変えてほしい」と声を上げていくことです。

メーカー・お店に対しても、「お客さまの声」は響きます。特に、売れると思うことは敏感です。もちろん企業には企業の理屈があるので、すべてが聞き入れられるわけではありません。しかし、意見を述べ合ってえていくことが大事です。

一方でプラ包装の削減は、レジ袋の有料化のように消費者にちょっととした不便を与えることもあります。これを支持するかどうか、みなさんとの価値観にかかっています。